

第 36 期新潟市社会教育委員会議 会議概要

第 6 回社会教育委員会議	
開催日時	令和 7 年 6 月 5 日（木） 午後 2 時～午後 4 時
会 場	ふるまち庁舎 4 階 401 会議室
出席者	【社会教育委員】 今井 岳、江口 和美、小倉 壮平、木村 いほ子、佐藤 裕紀、司山 園美、 白神 道子、羽賀 万起子、長谷川 雅朗、山岸 則子 計 10 名 ※敬称略 【講師】 新潟市教育委員会学校支援課地域クラブ推進室 八木 謙一 室長 【事務局】 教育次長、中央図書館長、教育総務課教育政策室員 2 名、生涯学習推進課長、 生涯学習推進課職員 6 名、 計 11 名
内 容	1 開会 2 職員自己紹介 3 報告事項 （１）教育委員会の組織について （２）令和 7 年度 社会教育関係課当初予算について （３）社会教育委員会議開催日程及び各種大会日程について ○報告資料 1 から 3 に基づき、事務局より各事項について説明しました。 【主な質問・意見等】 ・質問や意見はありませんでした。 （４）新潟市教育振興基本計画～にいがた学びのコンパス～について ○報告資料 4 に基づき、教育総務課教育政策室 石塚副参事、坂井主査より説明しました。 【主な質問・意見等】 ・質問や意見はありませんでした。 （５）第 35 期建議の対応状況について ○報告資料 5 に基づき、事務局より説明しました。 【主な質問・意見等】 ・質問や意見はありませんでした。 （６）生涯学習施策に係る方針作成について ○事務局より説明しました。 【主な質問・意見等】 ・質問や意見はありませんでした。 4 講話（話題提供） ○学校支援課地域クラブ推進室 八木 謙一 室長より「地域クラブ活動について」 講話しました。 【主な質問・意見等】 ・教員の平日の勤務時間は 16 時 45 分までであり、中学生の放課後部活動の実質活動時間は 35 分から 40 分程かと思うが、平日の平均練習時間はどれほどか。 → 6 時間目までである場合は 16 時前後から開始となるが、5 時間目までの日もあり、 その場合 15 時半ころから活動できる。

内 容	→学校によっては校時表を見直して活動の時間を確保できるよう工夫している。 ・現在の地域クラブ活動支援事業補助金は 50%の補助であるが、補助率 100%に近づけることは検討しているか。 →立ち上げの補助事業として今年度実施しているもので、今後についての予算拡充は未定である。しかし、地域移行の推進期間が終わり次は地域展開の実行期間となるため、支援は続けていく必要があると考えている。 ・小中学生は自分で行動できる範囲がせまいが、地域移行の際に送迎について課題をお持ちか。 →移動手段は課題だと考えているが、まずは新潟市として子どもたちが自分の家から通える範囲で活動ができるように、クラブ設立を強化している。あわせて、スクールバスの有効活用等は他都市の例を参考に考えていきたい。 ・今後は中学生が地域の小学生の活動に参加し、多世代交流が活発になるとメリットが挙げられていたが、他者との関わり方、特にプライバシーの問題や個人のプライベートな事柄について注意が必要となるため、大人の協力が欠かせない。その点の補助制度も検討しているか。 →まだ進められていない。 ・専門的な技術を持った指導者から指導を受けられることをメリットとしているが、保護者の多くは教育を専門的に学んだ教員が関わっているから安心して任せているのではないか。 →指導者については、団体リストに掲載する際に基準を設けており、コンプライアンスや指導についてオンデマンドの研修を必須としているため、同様に安心して任せられると考えている。 ・部活動の地域移行の話題が出た際に、教員の働き方改革も大きな要因であったがその部分がフェードアウトしていないか。 →推進方針の中では明記しており、理由として出していないわけではない。 ・学校毎に部活動の在り方を検討したとのことだが、どういうプロセスを経て結論を出したのか。 →令和 5 年度に新潟市の方針が出され、学校内部・PTA・学校運営協議会等で検討した。 ・市内中学校 57 校のうち 26 校が継続とあるが、継続・廃止を選択した地域の傾向や特徴はあるか。学校毎にリストを提示してほしい。 →情報提供できるか検討する。 4 意見交換（グループワーク） ○今後の調査研究活動について各グループに分かれて意見交換を行いました。 【主な質問・意見等】 【A グループ「こどもの多様な居場所づくりのための社会教育人材ネットワーク」】 〈前回までの意見交換及び講話を受けた課題選定〉 ・どこに住んでいても「居場所」にアクセスできる状況を確保できるように公共施設の整備等が進んでいない地域を整理して建議としてはどうか。 ・学校によっては校区が広く、自転車で 30 分程かけて通学し、冬場はスクールバスを運行している場合もある。その場合、地域クラブへの移動手段も課題となるが市で検討はされておらず、地域任せになっている。 ・地域クラブでは資金面や指導者確保や質の課題があるが地域任せになっている。 ・地域の状況にあわせて様々な課題に向き合うことも必要だが、まず新潟市として最低限の質担保するよう動いてほしいと提案したい。
------------	---

第 36 期新潟市社会教育委員会議 会議概要

内 容	・部活動の地域移行（地域展開）が課題と感じているのでテーマとしたい。 ・社会教育施設の活用を中心に、市が補助すべき事項一覧を作成してはどうか。 ・地域クラブ活動の団体リストはあるが、種類が限られている。例えば、青年会の活動に参加して地域芸能に携わることも受け皿の一つではないか。 ・コミュニティ協議会との連携を強化し事業をすることで、こどもの居場所も多様に展開できる。 ○建議作成に向けた次回の活動について、次の事項が確認された。 ・論点を整理し、建議に盛り込む内容を確定する。 ・こどもの居場所確保のため社会教育施設の活用や部活動の地域展開について、現状を整理する。 ・居場所として機能させるために市が補助すべきことを一覧にまとめる。 ・移動手段として、交通の面についても整理する。 ・地域クラブ活動の団体リストがより幅広い分野のリストとなるよう、垣根を超えた情報共有を進め、バリエーション展開を提案する。 【B グループ「生涯学び活躍できる社会教育人材ネットワーク」】 〈建議記載内容の共有〉 ・4章仕立てをする。内容は次のとおり。 （1章）第5回の「社会教育人材ネットワークについて」をテーマに埼玉県の事例を講話いただいた内容を受け委員自身が感じたこと等 （2章）文部科学省で示す狭義の社会教育人材だけでなく、地域で実際に活動している方々に活動やネットワークの必要性についてヒアリングした内容 （3章）公民館・図書館の職員が抱えるニーズや課題の調査結果について （4章）社会教育委員が実際に感じている「ネットワーク」について 〈ヒアリング候補の検討〉 ・次回（第7回）会議前後に小委員会を開催し講師をお呼びしてヒアリング等を実施することとした。複数の候補から依頼先を検討した。 ○ヒアリングしたい団体は事務局に調整・手配等を依頼し、視察候補については委員で日程調整後、先方への概要説明を終えてから事務局よりご連絡するということが確認された。 5 閉会
傍聴者	2 名
会議資料等	・第 36 期新潟市社会教育委員会議（6 回）次第 ・報告資料 1 新潟市組織機構図 ・報告資料 2—1 令和 7 年度当初予算事業説明書 ・報告資料 2—2 令和 7 年度社会教育関係団体補助金 ・報告資料 3 社会教育委員会議開催日程及び各種大会日程について ・報告資料 4 新潟市教育振興基本計画～にいがた学びのコンパス～について ・報告資料 5 第 35 期建議の対応状況について ・資料 1 地域クラブ活動について ・資料 2 第 5 回会議の意見交換まとめ